

卓話

白鳥 政孝バスターガバナー(五)

していなかったら、もし、ロータリーに真摯に取り組んでいなかったら、これほど世の中の真実(本質)を知りえたかどうか疑問であります。ロータリーが及ぼす影響は実に凄くと思います。入会して30年近くなる今、心が後ろ向きになったとき、ロータリーを辞めようかと思ったことが何度もありました。

ロータリーをより深く知り、素晴らしいロータリアンとの出会いから、後ろ向きの心が前向きに転じたりしながら、退会するとか、退会しないとかの繰り返し 素です。つまりお互いが聴く耳を持っているかどうかにかかっていると思います。「聞く力」とは凄いですね。人間関係を良くする大きな手段です。参考までに阿川佐和子さんの書いた「聞く力」という新書版を薦めます。人の「話を聞く」ということで人間関係はみるみる改善されることが書いてあります。ぜひ読んで見て下さい。

皆さまがロータリーから受ける恩恵に制限はありません「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」です。こうして得た恩恵を家族や職場に地域や世界中に分ちあうことが、ロータリーの奉仕の流れではないでしょうか。皆さんが、ロータリーの贈り物についてお考えくださり、新旧会員同士で語り合うならば、クラブはさらに充実されていくのではないのでしょうか。

私は29年間のロータリー・ライフにおいて多くの感動と恩恵をたっぷり受けて、自分自身の人作りに供しています。

これもロータリーとロータリアンである皆さま方のお陰であると、同時に家族や従業員のお陰でもあると感謝しております。最後になりますが、今、政治が政策よりも政局を重視し、天下国家を論ずるよりも選挙に勝利することに汲々としており、政治が小さくなっています。

同様にロータリーも「楽しくなければロータリーでない」といってお楽しみのみにつつま抜かしては、ロータリーは小さくなるばかりです。そしてやがて消滅してしまいます。

ロータリーを通じて「親睦の哲学」や「奉仕の哲学」を論じ合い、その哲学を实践してロータリーが与えてくれる贈り物の享受し、大きなロータリーを復活させようではありませんか。非凡なるロータリアンの皆さまがロータリーからの贈りものをたっぷり受けて、日本再興に少しでもお役に立つよい機会です。今すぐ小さなロータリーから大きなロータリーへと脱皮する決意をしようではありませんか。

「ロータリーを考える」に沿って口幅ったいことを多々申し上げましたが、意のあるところをお汲み取り願えれば幸でございます。ご清聴有難うございます。

(おわり)

第1911回 例会2012年3月27日(火)



ロータリーの実践倫理

「最もよく奉仕するものは、最もよく報われる」 He profits most who serves best.

《会報・IT・雑誌
・広報委員会》委員長：伊藤 剛迪 副委員長：大川 隆永
委員：平田 洋一 委員：高崎 卓哉社会奉仕基金
4,164円国際ロータリー第2790地区第12分区
松戸北ロータリークラブ

こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

2011-2012 国際ロータリー・テーマ

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- 1・真実かどうか
- 2・みんなに公平か
- 3・好意と友情を深めるか
- 4・みんなのためになるかどうか

第1911回 例会 (第35週) 2012年 3月27日(火)

国際ロータリー会長カルヤン・パネルジー
第2790地区ガバナー 山田修平
第12分区ガバナー補佐 安井克一
松戸北ロータリークラブ会長 鈴木悦朗
松戸北ロータリークラブ幹事 児山守治例会日 - 毎週火曜日12:30より(第1例会18:30)
例会場 - 松戸市根木内249-7 北小金ボウル1F
事務所 - 松戸市根木内249-7 榊山安内
TEL/FAX - 047-344-5696 / 047-344-5696
Web/Mail - www.rc2790-12.jp / kanji@rc2790-12.jp

The Ideal of Service (奉仕の理想) にむけて夢を追いかけよう

 会長挨拶：鈴木悦朗

3月第4例会会長挨拶

皆さんこんにちは。まだかまだかと思っていた東漸寺の樹齢330年のしだれ桜もようやく開花いたしました。今年は寒い日が続いたせいか例年より10日ほど遅れての開花です。

3月は、当クラブでは、ロータリー研修月間と位置づけ、第2例会では、織田吉郎パストガバナーにお話しいただきました。皆さんが素晴らしい卓話と絶賛しておりましたので、週報にスピーチ全文を掲載させていただきます。皆様も折りを見てご覧いただければ幸いです。

引き続き、今日は第2790地区で2年続けてガバナーをおつとめになりました白鳥パストガバナーに卓話をさせていただきます。白鳥パストガバナーと私は、地区委員長時代、フィリピンでのWCSプロジェクトで一緒させていただき、大変お世話になりました。クラブの先輩方より「鈴木さん、会長になったら世間話ではなく、ロータリーの話をしないとダメだよ」とご教示いただき、早い時期にしだれ桜の満開の時期に卓話をお願いしておりましたが、あいにくしだれ桜は満開ではないのですが、強いクラブにしてゆくためにも、後ほど身を引き締めてお話を拝聴したいと存じております。

さて、先日、長島会長エレクトより、次年度の人事のことで役職を断る方がいて困ったとの相談があり、私のときにもそのような傾向がありましたので、当クラブの歴代会長、幹事の方にお集まりいただき、パスト会長幹事会を開催いたしました。「Noといえないロータリー」がそうではなくなっている、委員会数の削減をすべきである、ロータリーのことを知っている会長幹事経験者ももう一度役職をすべきである等さまざまな意見が交わさ

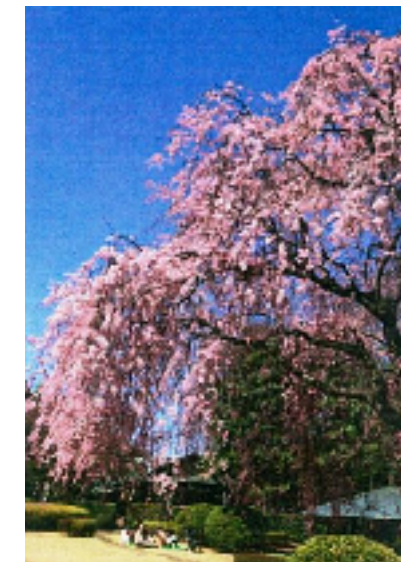
れました。クラブのことを自分のことのように心配しての熱い議論、また「よし自分がやるよ」という人も現れて感動いたしました。自分を抑制し、自分のことよりクラブや職場、地域社会に喜びを与えようとする心。それこそロータリアンです。定款によれば、クラブの方向性を語る場がクラブ協議会やファイアサイドミーティングであります。単なる刹那的な親睦ではなく、いい議論が交わされたことに感謝しております。

それでは幹事報告のあと、白鳥パストガバナーのお話しです。「入りて学び、出でて奉仕せよ Enter to learn, Go forth to serve」どうぞご静聴ください。

また来週は花見移動例会ですのでお間違いないようお願いいたします。



左下：
・
・
・
・
東漸寺の裏側の広場のしだれ桜



(松戸市 戸定邸のしだれ桜)



京都 醍醐寺 (見ごろ 3月下旬~4月上旬)



(鹿児島県 寺山いこいの広場)

 幹事報告：児山守治

- 1.ロータリーレート
1ドル・・・82円
- 2.例会变更のお知らせ
松戸中央ロータリークラブ
3月29日(木) 夜間移動例会
場所 北小金ボウル
松戸ロータリークラブ
4月11日(水) 移動例会
健康診断
- 3.中村力三会員
右足の膝窩動脈瘤と診断され
鎌ヶ谷総合病院で3月29日手術
入院期間は一ヶ月の予定



(熊本県 人吉城跡)



ロータリーの奉仕哲学「超私の奉仕」 Service above self

このServiceの意味は人のためにつくすこと。ビジネスでもServiceの心がけはシェルドンの言葉を借りれば「永続的な顧客を得る道」であり、信用を増して繁栄への道につながる。

卓話

白鳥 政孝バスターガバナー(一)



ロータリーを考える

入会歴の浅い会員と古い会員とのギャップを埋めたいという鈴木悦朗会長の意向をお聞きし、今日の卓話のテーマを「ロータリーを考える」としました。このテーマに沿って皆様と一緒に考えたいと思います。

まず皆さまに「自分にとってロータリーとあってはいかがでしょうか」とお尋ねしたいと思います。それぞれ心の内を探ってみて下さい。ロータリーでは知り合いができる、社会奉仕活動ができる、ステータスである、地域の人と交流ができる、異業種交換の場である、人間的に成長できる、仕事に役立つなど人によって捉え方がいろいろあります。会員として活動している間にもロータリーに対する考えも変化してまいります。やがて例会を人生の道場であると心がけるようになり、ロータリーで培ったものを職業に、人生に、地域社会に役立てようとする人、何もそこまでしなくても気軽に友情を育み地域に奉仕活動を展開しようとする人、遊び仲間を増やしていこうとする人、あるいは漠然とクラブに所属している人10人10色であり、それぞれの色合いと深みも違ってきます。

しかし、ここで考えてみて下さい。せっかくロータリアンになったのですから、ロータリーの良さ(恩恵)を享受したいものと思うのです。このロータリーからの受ける恩恵とはどんなものであるかを述べる前に、次のような経験がありませんか。

よくロータリーに入会して先輩ロータリアンにロータリーのイロハを聞くことがあります。そのとき先輩は「そのうちに分かるようになるよ」といってロータリーについてあまり語ろうとしません。それどころか飲み会やゴルフに誘ったりします。

これもそれなりに親睦のきっかけになることで良いことなのですが、そればかりで終わる傾向があります。

新会員は新鮮な気持ちでロータリーを知りたがっている時期なのに「そのうちに分かるようになるよ」で片付けられてしまっただけの本も子もなくなり、いつまでたってもクラブの教育機能が発揮されずに成り行きに任せていますと、やがて会員はロータリーに失望してやめてしまいます。ロータリーの発展どころか年々細っていくばかりです。

子どもの教育に言われていますが、子供が成長の途中で盛んに質問を発する時期があります。その時にきちんと答えてやらないと、子供の知識欲は減退し、対話がなくなり、情緒不安定になります。親子の関係がギクシャクしてまいります。それと全く同じことがロータリーの場合にも当てはまるのではないのでしょうか。新会員のロータリーへの関心を殺ぐことは最も戒めなければならないことです。会員がロータリーから受ける恩恵を知らずしてロータリーを去って行く大きな原因になっています。

100人入会しても100人以上退会している現状を見ると、このロータリーに関する情報や精神的な支えになっているロータリーの思想を知り、人間的な成長をお互いに求めていることに原因があります。それを是正するにはクラブ内での新旧会員同士の語り合いが大切になります。ロータリー・クラブの充実にはクラブ内での語り合いの場があるかないかにかかっているといっても過言ではありません。もしそのような場がないとすれば、地域の業界を代表している有能(非凡)な人がロータリー・クラブを去っていくことになり地域社会にとって実に大きな損失であります。鈴木会長は転ばぬ先の杖ともいえるのでしょうか、この辺を問題として取り上げていきます。その慧眼に敬意を表します。

(二)につづく



ロータリーの実践倫理

「最もよく奉仕するものは、最もよく報われる」 He profits most who serves best.

卓話

第1911回 例会2012年3月27日(火)

白鳥 政孝バスターガバナー(二)

それではロータリーの良さを享受するといいましたが、約30年の経験からその恩恵を如何にして身につけたかを僭越ながら申し上げます。

入会してからクラブではいろいろな役目を与えられ、例会や親睦活動とか、セミナーやIMなどの会合に出席を義務付けられています。それらをこなしているうちにロータリーの神髄である職業奉仕の本質を少しずつ知るようになり、それまでに気にもかけなかった洞察力、寛容、親睦、利己と利他、多様性、高潔性とかの言葉に触れては、一体それは何か、また世界の識字率、貧困、環境、水保全、ポリオ撲滅、青少年交換学生、米山奨学会などにも関心をいだき真剣に考えるようになりました。

そうこうしているうちに、思慮深い考えや、分別ある感性(センス)が、ロータリー・ライフの中でごく自然に育まれてきたのでしょうか、クラブや家庭や会社での自分の行動が変化しているのに気づいてまいりました。周囲の人や環境にたいして感謝の念を持つようになってきたのです。

鎌倉時代の初期の道元禅僧の言葉に「霧の中を歩めば、覚えざるに衣湿る」という一節があります。朝早く起きて朝もやの中を歩いて帰ってみると、知らないうちに衣が湿っていた。その場所にいるときはわからないが、知らないうちに自然に影響を受けているという話です。このようにロータリーも例会の出席を重ねているうちに意識せずともよい影響を受けることがあります。

特にロータリーの特長である職業奉仕を知るにおよんで、それまで考えても見えない世の中の経済活動の仕組みに関心を持つようになりました。学生時代は資本を有する資本家階級と自分の労働力以外売るものをもたない労働者階級とがあり、労働者階級は資本家階級から搾取され

ているという仕組みを聞き及んだ時の驚きと、同じくらいの衝撃がありました。世の中の仕組みを見る観点の幅が広くなり、様々な見方ができるようになりました。

ロータリーの職業奉仕からは、分業の社会において自分の職業は天から授かった天職と心得て社会の仕組みの一端を担っていると意識して自分の職業を懸命に全うしなければならない務めがある。つまり職業を通じて世の中でお役たつという考え方に接した時にも目を開かされた覚えがあります。学生時代を第一の衝撃とすれば、ロータリーの職業奉仕は第二の衝撃でした。

「超我的奉仕」にある奉仕の理念や「最もよく奉仕する者、最も多く報われる」という経営の真理を学ぶと同時にその考えを身につけようと努力していたのですが、学ぶことはできても身に付けることは本当に難しいと今でも思っています。「言うは易く行なうは難し」です。

クラブから推されて地区委員会の委員になったのですが、その体験は、1クラブ内のそれとは比較になりません。ロータリーの広さ、奥行きの実感したものです。多くの素晴らしい人との交流もありました。入会して13年目から6年間地区職業奉仕委員と2年間地区青少年交換委員を経験しましたが、多くの先輩ロータリアンや地区委員の方々との交流から今までにない知識を得て、数々のイベントを通して友情を育むことができました。多少仕事に影響しましたが、それを補って余りあるものがありました。

同じようなことがクラブ内のメンバーとの交流からも感化されて趣味や仕事の幅も広くなり、音楽、絵画、建築などに関心を持ち始めて美しさへの感性(センス)が身につくようになり、ロータリーは私の人生に豊かな彩りを添えてまいりました。

(三)につづく

卓話

白鳥 政孝バストガバナー(三)

それは予想をはるかに超えたものであり、私にとってロータリーは、感動的であり、刺激的であり、教訓的であり、未知の世界への誘いであり、人生最大の師に出会ったといえるほどになりました。

もっと知ろう、もっと学ぼうという気持ちが湧いてきて、学べば学ぶほど、また交流の輪が広がれば広がるほど、ロータリーは奥行きを増し、間口を拡げてまいりました。ロータリーに入会して職業奉仕の思想的な面ばかりでなく、「知的好奇心」も刺激を受けて、いろいろなセンスが身に付いて確かな判断力がついてまいりました。今、振り返るとロータリーの良さを身につけるのは、与えられるのではなく自らの好奇心を高めて行動することにあつたのではないかと思います。

何ごとともそうではありますが、自ら求めなければ得られないのです。しかし、いつもそのような気持ちでいたのかというと、そうではありません。ただ与えられたことに力を尽くしていた結果ロータリーの恩恵にありつけたのだと思います。

ロータリーは一つの人生哲学である。それは実践しなければならぬといわれています。そこで原理を踏まえていない実践は世に役立つ活動とはいいいない面があるように考えるになりました。一人ひとりのロータリアンがロータリーの理念を踏まえて世に役立つ活動を展開するのが、ロータリーの基本であると考えようになりました。このようなことを考えている時に本田宗一郎さんの理念に出会いました。

ホンダ自動車の創業者である本田宗一郎さんは「理念なき行動は凶器であり、行動なき理念は無価値である」といって、理念なき思いの行動は会社の発展どころか、会社の命取りになりかねない。

また、どんな立派な理念も実践しなければ意味がないと、理念と実践との関連について明快に述べています。

そのホンダの理念とは人間尊重を掲げ、自立、平等、信頼、それに買う喜び、売る喜び、創る喜びなどを掲げています。内容はロータリーの理念と殆ど変わりがありませぬ。もし、創業者の理念を逸脱して利益最優先に走ったとすれば今日のホンダの発展はなかったのではないのでしょうか。行動の裏付けとなる理念(思想)とその哲学を学ぶことの大切さを知るようになりました。

入会したてのときは、ロータリーの理念については殆ど理解しておりません。分かりにくいロータリーの理念を書物や人に教わったりして知識を学ぶことも大事ですが、ある程度学んだら実際に行動することで理念を理解するヒントが得られます。もう一度本を読んで勉強しようとか、反省して次の実践を試みようとかになります。この学ぶことと実践の繰り返し、より高いレベルの親睦活動や奉仕活動へと変化してまいります。このように理念を学んでは実践する、実践しては学ぶ、この繰り返しは奉仕活動をより効果的なものにしてまいります。私は理念と実践との関係についてこのように考えるまでに相当な時間がかかりました。

汗を流すこと(実践)が個人の資質の向上に繋がるわけですから、ロータリーは現場での行動がいかに大事であるかを知り、学びと実践の繰り返しから奉仕活動の本当の意味を知ることができたのではないかと考えています。体験から滲みでる知恵をもって世に役立つ、人のためになる喜びを味わいました。WCS活動やポリオ撲滅活動や社会奉仕から得た感動は、なにものにも変えがたいものでした。学びと実践の繰り返しは自らの人間形成にも大変役に立ったのです。

(四)につづく

The Ideal of Service (奉仕の理想) にむけて夢を追いかけてよう

卓話

白鳥 政孝バストガバナー(四)

さらにロータリーは感性や教養を育むのにつけてついで場所となりました。利害関係のないロータリーでは、自由闊達に話しあいながらクラブ運営やプロジェクトを企画し進めてまいります。そこではお互いの意見を尊重しあうプロセスを大事にするというロータリーの鉄則があるので多面的なものごとを捉える判断力を養うことができてまいりました。

こうしてみると過去や未来をも考えない刹那的な楽しみを求める親睦と、ロータリーでいう「親睦の哲学」に基づいた親睦の内容には、大きな違いがあります。「親睦の哲学」とは、仲間同士として相和するうちに心を磨きあい人間性の向上をはかることにあり、ためになったとか、良かったという思いがふつふつ湧いてくる心の状態のことをいい、お互いの良い面を感化し感性を磨くことがロータリーでいう親睦にあります。「ロータリーを楽しむ」とか、“Enjoy Rotary”というのはこのようなことをいうのではないのでしょうか。決して刹那的な悦楽に浸ることではないのです。

もしクラブ内でお互い感化しあうような真の親睦の雰囲気がないとするならば、そのクラブは単なる社交クラブか、奉仕団体にすぎません。クラブは向上心溢れる仲間の集いとなり、「例会は人生の道場」とか「自己研鑽を積む場」とするならば、ロータリーの恩恵は、クラブのロータリアンに沢山贈られてきます。クラブの活性化とはそのような状況下にあることをいうのです。これはロータリーの危機を回避する王道であります。

ロータリーの職業奉仕の理念を学ぶのも、クラブ奉仕からいろいろ体験しながら友情を育むのも、社会奉仕や国際奉仕から世の中の道理や不条理を知るのも、すべては週一度の例会で会員同士が語り合うことから始まります。

このことを皆様は十分に承知しているのですが、それを自分のロータリー・ライフに活用しているかどうかは人によって様々であります。知ったらやらなければならないのがロータリーです。ロータリーが実践哲学である所以です。

人生にはいろいろ判断し、決断を下すことが多くあります。ましてや責任ある職業人である皆さまは判断の基準となる一線を何処に引くかを迫られることがあります。その時、ロータリーで培った価値観や判断力によつて的確な決断を下すようになれるのも「ロータリーの恩恵」ではないかと思います。

「超私の奉仕」や「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」というロータリーのテーマに基づいて自己制御の修練を積んでいますが、この修練は、企業が永続性を保ち、繁栄の道から逸脱しないような判断力をも培っています。そればかりではありません。ロータリーは週一度、同じ釜の飯を食う仲間との語り合いによって心が癒され、刺激を受けて新たな気持ちで職場に戻ります。

このようにロータリーはいろいろな恩恵や贈りものを私たちにもたらしています。その恩恵の量と質はロータリアン自身の心の持ち方次第によって決まります。日常なにげなく行っている週一回の例会、歌の斉唱、IMの開催、各種セミナーなど、何故行なうのかを歴史的に問うことも恩恵を自分のものにする一つの方法です。「賢者は歴史に学び、愚者は経験に学ぶ」といいます。歴史から学ぶことは数限りなくあり、奥深いものがあります。ロータリーの歴史を皆で迎えることなどクラブの活性化の大事な手段となります。皆さまとこうしてお会いし、話をさせていただいておりますが、もし、ロータリーに入会

(五)につづく



ロータリーの奉仕哲学「超私の奉仕」 Service above self

このServiceの意味は人のためにつくすこと。ビジネスでもServiceの心がけはシェルドンの言葉を借りれば「永続的な顧客を得る道」であり、信用を増して繁栄への道につながる。